

名大の時間

大学生としての3か月

た。今となつては大
学生生活に慣れてきた
が、初めは右も左も
わからない状態で、
名寄を初めて訪れた
ときには、非常に不
安であった。

多くの名寄大生
は、引越し先に親
と一緒に付き添い、
入学式のときまでい
たそうだが、私の場
合は一人で名寄に來
て、生活をしてきた。
よって、余裕をもっ
て引越しをしたこ

ともあって、引越
してから入学式ま
で2日間あったが、
その間にもほかの人
たちは親がいてくれ
たのに対して、私の
場合はそうではな
かった。

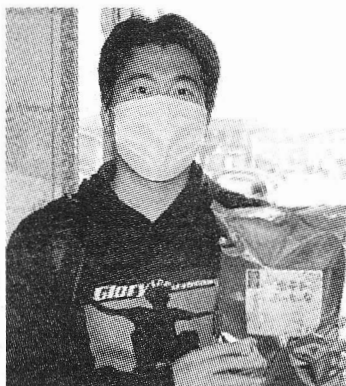
このことから、私
は寂しい気持ちでい
っぱいであった。親
という存在の大切さ
を身に染みて感じ
た。しかし、そのこ
とにくよくよしても何
も始まらないので、

その後自分なりに新
生活の準備を進め
た。そして、入学式を
迎え、友人もできた。
それにつれて寂しさ
もいつの間にか無く
なっていた。

コロナ禍の中で大
学生生活が始まった
が、最初はどうなる
ことやらと思ってい
た。しかし、入学式や
対面授業が一部あっ
たので、私たち名大
生はまだ恵まれてい
るほうだと感じた。

4月の間は、とにかく一人暮らしと大学生活になれることが先決であった。初めて行うことは、やはり壁にぶつかることが多い。だが、そのことは自分自身が成長しようとする努力していることの表れでもある。

家では掃除、洗濯、料理、買い物、そして学校では授業、課題、学内設備の把握に努めた。おかげで今はすっかり一人暮らしと大学生活に慣れた。GWに入り、実家に帰省する人もいる



してき
ていた
のだ
が、5
月16日
に緊急
事態宣
言が北
海道に

なかで、私は実家が
離れているため帰省
しなかった。そのた
め、GW中は4月で
頑張った分を癒すた
めに、体を休めたり、
市内を散策したり、
大学の友人の家で過
ごしたりした。

発令された。このよ
うにまだまだコロナ
禍の終わりが見えな
い状況だが、一度き
りの大学生活を無駄
にしないように、日
々精進していき
たい。

このようにして充
実した生活を取り戻

社会福祉学科1年

大津北斗

名寄市立大学に入
学して3カ月が過ぎ